

# 優良性評価で活発意見交換

## 第1回全体会議を開催

中部地域  
協議会



中部地域協議会のもよう

中部地域協議会(近藤成章会長)は7月17日、2009年度第1回全体会議を四日市シティホテル(三重県四日市市)で開催した。当日は(社)全国産業廃棄物連合会の國中賢吉会長も出席、新たなスタートを切った。

冒頭あいさつに立った中部地域協議会の近藤会長は「不況、新型

インフルエンザ、選挙、など社会的な不安定要素の加え、業界的にもマニフェスト、優良性評価などへ対応など課題は多い、しかし皆で知恵を絞って明るく前進しよう」と呼び掛けた。

来賓の全産廃連の國中賢吉会長は「7月14日の理事会での報告で、廃棄物処理法の改

正の方向性が見えってきた。欠格条項の見直しなど、法制度委員会で検討する。おそらく来年の通常国会には上がるだろう。評

価できるところまで整ったと確信している」と述べた。

議事に入り、08年度事業報告および収支決算報告のあと、全産廃連の青木総務部長から廃棄物処理法の改正の動向についての報告が、具体的には、▽排出事業者の責任の強化▽廃棄物処理業の許可制度の整備と優良性の推進▽廃棄物処理施設設置許可制度および最終処分場対策の整備▽地方自治体の運用などについて説明した。

意見交換では「優良性の適合確認を更新時でなく随時受け付け、1許可ごとではなく1企業ごとに審査できないか」、「情報公開の処理実績半年を1年にするか」などの質問

に対し、「制度見直し検討委員会が始まるので、今しばらく待つてほしい。愛知県は今年度から随時受け付けに変更した(全産廃連)

とのやり取りがあった。また、各都道府県協会の公益法人改革への対応状況に関するアンケート結果も全産廃連から報告された。

平成21年8月17日  
週刊循環経済新聞